

在鸣门 第97期

大家好。我是新任鸣门市国际交流员——蔡文娟。我出生于中国山西省，本科就读于位于西安的西北大学，硕士就读于北京第二外国语学院。毕业后在某咨询公司工作1年，之后在日本驻华大使馆任职4年。

我以前曾来日本游玩过一次，这次是第一次在日本生活。出发前，我在憧憬未来一年的生活的同时，心里又带着些许不安。但是，踏上鸣门的土地上后，美丽的自然风光和热情的上司同事让我的担心顿时消失得无影无踪了。这种静谧安宁、悠闲平和的氛围，在北京是极少能感受到的。我相信这一年会在我人生画上浓墨重彩的一笔，成为一段无可取代的经历。

我希望自己通过在市役所的工作，为中日友好交流贡献一份微薄的力量。回国后，我也会充分利用这一年的经验，继续从事与中日交流合作有关的工作。同时，在生活上，我也希望自己能尽快充实起来，学习阿波舞、茶道、插花等日本文化，渡过愉快的一年。

不懂的事情还有很多，还望大家不吝赐教。

谢谢！

皆様、こんにちは。2014年度の国際交流員として鳴門市役所に勤務させていただくことになりました蔡文娟でございます。私の出身地は中国の山西省であり、西安にある西北大学（学士課程）と北京第二外国語大学（修士課程）を卒業した後、あるコンサルティング会社で1年間、そして在中国日本大使館で4年間働いていました。

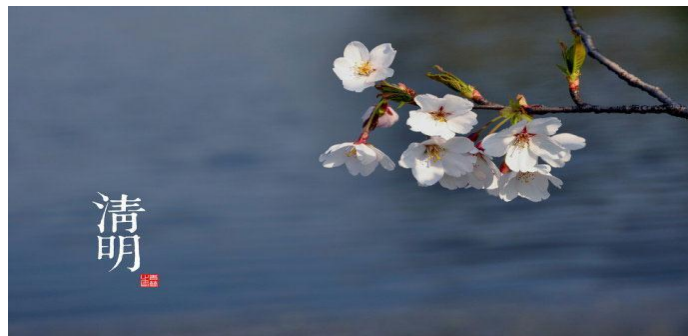
日本に来たのは2回目ですが、実際に生活するのは初めてです。不安と楽しみ両方を抱えて北京を発ったのですが、鳴門の土地に足を踏み入れた瞬間に目に入った自然の美しさや、職場の方々の優しさに心を打たれ、「ここが好きになるかも…」と思うようになりました。北京にはこのような長閑で、落ち着いたのある雰囲気はありません。この1年間はきっと、私の人生の中でかけがえのない経験になるという直感があります。

市役所での仕事を通して、微力ながら、日中友好の促進に貢献してまいりたい所存でございます。任期を終えて帰国した後も、積み重ねた経験を活かし、日中友好交流の仕事に携わりたいと思います。また、生活面においても、趣味を見つけ、阿波踊りや、茶道、花道等の日本文化を体験し、楽しくて充実した1年間を過ごしたいと思います。

ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

来日本之时，正值中国的清明节。清明，意为万物清新、明亮，大自然开始变得美丽。清明节是 24 节气中的第 5 个，现在一般指太阳黄经位于 15 度的时候，即 4 月 5 日左右。

私が来日した頃はちょうど中国の「清明節」でした。「清明」とは万物がすがすがしく明るく美しいという意味です。清明は、二十四節気の 5 番目で、現在は太陽黄経が 15 度のときで 4 月 5 日ごろです。



清明节要去祭拜祖先的坟墓，清除坟墓周围的草，因此也叫“扫墓节”。相当于日本的盂兰盆节。其次，在这一节气时，人们都会去郊外散步踏青，因此亦称“踏青节”。清明节前采摘的茶叶为“明前茶”。在中国，越是靠近清明节采摘的茶，越香味浓厚、甘冽清甜，故越是高级。

清明節は祖先の墓を参り、草むしりをして墓を掃除する日であり、「掃墓節」とも呼ばれています。日本におけるお盆に当たる年中行事です。また、春を迎えて郊外を散策する日であり、「踏青節」とも呼ばれています。清明節前に摘んだ茶葉を「明前茶」といいます。中国で緑茶は、清明節に近い時期に摘むほど香りと甘みがあり、高級とされています。



在 24 节气中，唯一成为节日的，只有清明节。汉族传统的清明节始于周代，至战国时代开始至今的 2400 年间，逐渐在民间形成了清明节的风俗。各地习俗岁各不相同，但扫墓和踏青，是最基本的主题。在墓地清除杂草、添新图、点燃蜡烛和香、烧纸钱、供奉食品、行礼默哀。也有一些团体到革命烈士的墓前献花圈或松枝，表达哀悼之意。其次还有郊外散步、放风筝、荡秋千等习俗。

中国で 24 ある節気のうち、祭日となったのはこの清明節だけです。漢族伝統の清明節は周代から始まり、戦国時代から約 2,400 年の間に、民間の間で清明節の習俗が形成されたとされています。各地の習俗は同じではありませんが、お墓参りや踏青などは、この祭りの基本のテーマです。お墓の雑草を取ったり、新しい土を添えて蠟燭と線香を立て、紙銭を焼いて、おかずを作ってお墓の前に供えたり、お礼と黙禱を捧げます。革命烈士の墓地へ花輪や花束と松の枝を捧げて、哀悼の意を表す団体もあります。この他、郊外で散策したり、凧揚げをしたり、ブランコをやったりする慣わしもあります。



在咏叹清明节的诗歌中，有一首人尽皆知，那便是唐代诗人杜牧的《清明》。

清明时节雨纷纷
路上行人欲断魂
借问酒家何处有
牧童遥指杏花村

时值清明，气候渐暖，但春雨降落时依旧感觉寒冷。因此想借着名酒，一解寒冷和哀愁。这首诗语调优美流畅，很有画面感，让读者仿佛身临其境、回味无穷。

清明節を詠んだ詩の中で、もっともすぐれているのは、唐の詩人杜牧の『清明』をおいて他にありません。

清明時節雨紛々	清明の時節は雨紛紛
路上行人欲断魂	路上の行人魂を断たんと欲す
借問酒家何处有	借問す酒家は何处に有りやと
牧童遥指杏花村	牧童遥かに指さす杏花村

「時は清明、気候はしだいに暖かくなってきたが、ただ春雨がしとしと降る時には、やはり寒さがこたえる。人は名酒の産地杏花村に思いを馳せ、一杯やって身体を暖めたいと願う」。この詩は流暢な調子と美しい言葉で、絵に見るように清明節の風景を描いており、読む者に身をその地に置いたような感を抱かせ、限らない味わいを人々に抱かせます。



(文章の中の写真や図は「百度」から引用されたものである。文中所用图片来自百度网站)

部門：鳴門市観光振興課

地址：鳴門市撫養町南浜字東浜 170 (〒772-8501)

TEL: 088-684-1746

FAX: 088-684-1339

E-mail: kokusai@city.naruto.lg.jp

編輯：蔡文娟